

子供たちと地域を繋ぎ支える「おはなし長屋」

高齢化率が高い地域(*注1)は今や珍しくありませんが、それが進行している地域の中に、あったらいいと思えるものは何でしょうか？ 私ならシニアと子供たちがともに過ごせる居場所が欲しい！ そんな取り組みをしているところがあれば是非見学させていただきたい…！と取材先を探し、今回伺ったのが藤枝市にある「おはなし長屋」です。

お訪ねしてみると、こちらは過去にも2015年3月の「地域耳寄り」や「すこやか長寿52号」の特派員便りに紹介され、以前から注目されてきた場所だと知りましたが、今回は子供たちとの関わり方をどのようにされているのかに着眼しご紹介しようと思います。



おはなし長屋



おはなし長屋

最初に伺ったのは3月22日に行われた月に一度の「幼子昼餉の日」。外観は普通のお宅ですが、玄関前には一枚板の大きな“おはなし長屋”の表札とお便りの掲示板があり、温かく迎え入れられる雰囲気に溢れています。

玄関に入ってまず目に飛び込んでくるのが皆さんの作品の数々。そして広間いっぱいの子とお母さん達が、スタッフとボランティアで来て下さった先生の歌やお話に合わせ、楽しそうに体を動かしています。先生手作りの動く紙芝居ではお母さんの膝を離れ、夢中になって前に出てお話の世界に入り込む幼子たち。



おはなし長屋



おはなし長屋



増田1



おはなし長屋

その間、台所では調理スタッフの皆さんが昼食の支度。音楽表現活動が大盛り上がりで終わる頃には、外遊びに出掛けていた園児や小学生の子供たちも戻り、総勢100名近い参加者の大昼食会となりました。1階だけには収まり切れず2階も解放です。

この活動を支えるスタッフは、地域に住む30名程の方々です。昼食の時間になると男性スタッフが手際良くテーブルを移動し、広間が昼食会場に変わると、そこにカレーやサラダのお皿があつという間に並びます。お母さんや子供たちが賑やかに食事を満喫している様子にスタッフの温かい視線が注がれ、居心地の良さが伝わります。



おはなし長屋

(左) スタッフさん総出の昼食準備

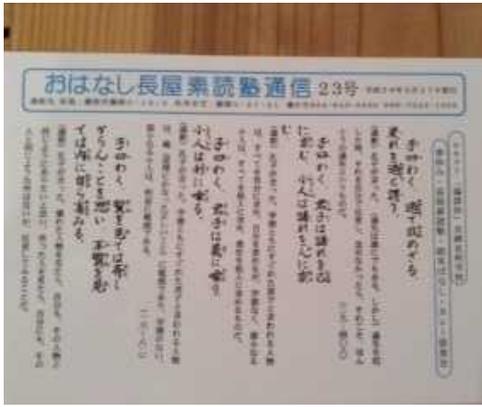


増田2

(右) 本日の男性スタッフの面々

おはなし長屋では、「絵本ばなし」という活動をずっと続けています。いわゆる“読み聞かせ”ですが、あえて「絵本ばなし」と呼ぶのは、上手に読むためのスキルアップを気に掛けなくても、自分の子供や孫に絵本を読んで聞かせるつもりで良い、という気持ちが込められているからです。また子供たちにも聞き手を前に絵本を読む活動をして貰うのですが、それは“聞くだけでなく、読む側に立って主体的に本と関わってほしい”という思いがあるからです。そこで求められるのが「聞き役ボランティア」。拙いながらも一生懸命に本を読む子供たちに寄り添い耳を傾けて聞くことで、子供たちの心の成長を支援していこうというものです。

27日には『特別企画のおたっしゃかい』（子供向けには「春休み長屋素読塾 絵本ばなし・カレー昼食会」）として子供たちがグループに分かれ、「聞き役ボランティア」に手を挙げて下さったお宅を訪問して「絵本ばなし」をしてお聞きし、再度伺いました。



[おはなし長屋](#)

[IMG 2893](#)

(左) 論語素読のプリント (右) おはなし長屋で絵本ばなしをする子供たち

子供たちはまず絵本を選んで読む練習。30分程するとシニアの皆さんも集合し、皆で論語の素読を行います。

書かれている内容を読んでいると、幼い内に論語に触れる機会を持った子供たちが、そのこと・その内容をうっすらとでも覚えていてくれたら、きっと大きな心を持った真っ直ぐな人に育ってくれるのではないかと思えてきます。長屋を開設された松本さんご夫妻の意思が伝わってくるようでした。

その後児童はグループに分かれ、長屋や訪問先での「絵本ばなし」を2か所で行いました。私が一緒に伺ったお宅では昔のお話をして下さり長居になってしまいましたが、子供たちの訪問をとっても楽しみにしていることがわかりました。一人暮らしのお年寄りにとってこんなに嬉しい訪問はないだろうとしみじみ感じます。



[おはなし長屋](#)

(左) 聞き役ボランティアのお宅で絵本を読む子供たち (右) 訪問先のお宅から担当のスタッフさんとお喋りしながらおはなし長屋へ戻ります



[おはなし長屋](#)

登場人物になりきり面白可笑しく読むペアの子供たちの前では、皆さんが笑いながら楽しそうに聞いています。そこから子供たちは「喜んでもらう喜び」をたくさん感じてくれたようでした。



[おはなし長屋](#)



[おはなし長屋](#)

メインイベントが済むと、お楽しみのカレー昼食会。シニアと子供たちが同じテーブルでお喋りしながら食事します。食べた後のお皿の汚れは、濡れ新聞紙できれいに拭き取ってから片付けました。そんなことも学ぶ場です。



おはなし長屋

(左) 長屋で室長と呼ばれる松本治雄さん
支える奥様〈手前に立つ方〉



おはなし長屋

(右) 渉外・広報・総合調整推進役で活動を

こは教員をされていた松本さんが、退職後自分の居場所が欲しいと言って作られたと奥様から伺いましたが、ここでならできること、ここでしかできないことがたくさんあって、ご夫妻や地域にとって何物にも代えがたいものに育っているように感じられました。

同じ事が誰にでもできるわけではありませんが、意思を持って皆で作ろうと思えば、私達にも子供たちを見守りながら支援したり安心や楽しみを共有できる居場所作りは可能だと思えます。こちらでそんな理想を見せていただきました。

☆ 「おはなし長屋」の普段の活動の様子は、2015年3月31日付の「地域耳寄り」の記事にも紹介されていますので、是非そちらもご覧ください。

*(注1) 内閣府から出された平成26年度の人口推計では、静岡県の高齢化率は2014年に26,9%だったものが、2040年には37%になると見込まれています。

志太榛北地区担当生きがい特派員 増田昌江